

Quartett Muss es sein?

ベートーヴェン弦楽四重奏全曲演奏会 - 第2回 -



Ludwig van Beethoven

弦楽四重奏曲 第12番 変ホ長調 op.127

弦楽四重奏曲 第2番 ト長調 op.18-2

弦楽四重奏曲 第8番 ホ短調 op.59-2 「ラズモフスキー 第2番」

2026. **11.23** [月・祝] 14:30 開場
15:00 開演

Halle Runde (名古屋市昭和区桜山町)

[チケット代金 (全席自由)] 整理番号順入場

* WEB早期申込み割引あり

一般：5,000 円 学生：2,500 円

ペア：9,000 円 (ルンデ取扱いのみ)

チケットの購入はこちらから

ルンデ

<https://dbf.jp/runde/r261123>

* 未就学児のご入場はお断りしております。



『花束よりチケットを』

ルンデでは出演者のプレゼント等は受付にてお預かりいたしません。
そのお気持ちをチケットにかえて、ご家族、ご友人とお越しいただけ
ましたらうれしく思います。

最期に完成した弦楽四重奏となった第16番作品135の終楽章印刷ページの最初に、ベートーヴェンは不思議なコメントを記している。冒頭グラヴェの三音に“Muss es sein? (こうでなければならぬのか?)”、その先の三音繰返しに“Es muss sein! (こうでなければならぬ!)”と書いたのだ。

修練期の終わりから最晩年まで、総計16曲の弦楽四重奏曲を書き続けた楽聖が、最期の最期に呟いた謎めいた言葉は、250年近くも人々を困惑させてきた。そもそも何が問題で、何がそうでなければならないのか？

学生時代から仲間を集め、このジャンルに挑戦していたチェリスト山崎伸子は、ソリストとしての時間を割き、多くの音楽家らとベートーヴェンの弦楽四重奏曲を奏で、学び、議論し、教え、深めてきた。長老の域に達した今でも、学ぶことはまだ多いと意欲に燃える山崎が、音楽家人生の集大成としてベートーヴェン弦楽四重奏全曲に取り組もうとする。

そこに至る前に、ヴァイオリンは都響を率いる水谷晃、ヴィオラはN響の最前列に座る村上淳一郎という若き実力者らと、この作曲家が弦楽四重奏着手前に終止符を打った弦楽三重奏を丸2年かけて全曲演奏し、若き楽聖の思考と作曲技法の発展をじっくり探求。そしていよいよ、弦楽四重奏の経験も深い對馬哲男を第2ヴァイオリンに迎え、満を持して16曲+αの楽譜に対する。「こうでなければならぬのか？」の問いに真っ正面から答える、6年の長い音楽が始まる。

(音楽ジャーナリスト 渡辺 和)



水谷晃〈ヴァイオリン〉

大分市生まれ。桐朋学園大学を首席で卒業。ヴァイオリンを小林健次氏、室内楽を原田幸一郎・毛利伯郎の各氏と東京クワルテットに師事。在学中Verus String Quartetを結成し、第57回ミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門で第三位入賞。2010年4月より国内最年少のコンサートマスターとして群馬交響楽団コンサートマスターに就任。東京交響楽団を経て、現在、東京都交響楽団コンサートマスターとオーケストラ・アンサンブル金沢客員コンサートマスターを兼任。室内楽奏者として木曾、ゆふいん等、各地の音楽祭にも出演。

母校・桐朋学園大学講師として後進の育成にも取り組んでいる。

<https://www.wakako-akira-violin.com/>



對馬哲男〈ヴァイオリン〉

東京芸術大学音楽学部器楽科卒業後、同大学音楽研究科修士課程修了。三菱地所賞、アカンサス音楽賞受賞。読売新人演奏会、藝大室内楽定期演奏会、JTが育てるアンサンブルシリーズ等に出演。第22回かながわ音楽コンクール最優秀賞、神奈川県知事賞受賞。

第60回全日本学生音楽コンクール全国大会第一位。第23回リゾナーレ室内楽セミナー 優秀賞。

現在読売日本交響楽団 次席第1ヴァイオリン奏者。



村上淳一郎〈ヴィオラ〉

桐朋学園にてヴィオラを店村真積氏、室内楽を山崎伸子、ゴールドベルク山根美代子の各氏に師事。

2003年より文化庁新進芸術家海外派遣員としてイタリア、フィレンツェに留学。ケルビーニ音楽院にてヴィオラをアウグスト・ヴィスマーラ氏に師事。

トリエステ国際コンクール第1位(イタリア,トリエステ) 当時のイタリア大統領チャンピ氏より金メダルを授与される他、イタリア全土、ヨーロッパ各地で約50回のコンサートを提供される。

ヴィットリオ・グイ国際コンクール第1位(イタリア,フィレンツェ)。

2009年イタリアからドイツに移りケルン放送交響楽団ソロヴィオリストに就任、ゲヴァントハウス管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、バンベルク交響楽団等で客演首席奏者として出演の他、ヨーロッパ各地の音楽祭で室内楽奏者や独奏者として出演。

2021年10月よりNHK交響楽団首席ヴィオラ奏者。



山崎伸子〈チェロ〉

広島生まれ。桐朋女子高等学校音楽科、同大学音楽学部卒業。齋藤秀雄、レイヌ・フラショー、堤剛、安田謙一郎、藤原真理各氏に師事。

第1回民音室内楽コンクール第1位、第44回日本音楽コンクール・チェロ部門第1位。卒業後、文化庁海外派遣研修員として、ジュネーブでピエール・フルニエに師事。

2007年より10年にわたり津田ホール、浜離宮朝日ホールでチェロ・ソナタ・シリーズを開催し、2017年5月に紀尾井ホールで最終回を迎え、好評を博した。2018年12月にはライブ録音した「J.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲全曲」をリリース。2017年度からフィリアホールにて山崎伸子プロデュース「未来に繋ぐ室内楽」と題し、優秀な若手演奏家の紹介と室内楽を共演するシリーズを開催している。

「村松賞」、「グローバル音楽賞第1回奨励賞」「東燃ゼネラル音楽賞(旧:エクソンモービル音楽賞)」奨励賞受賞。現在、桐朋学園大学特任教授、東京芸術大学名誉教授。使用楽器はヒエロニムス・アマティ 1641年製。

チケット販売 ▶▶ 芸文プレイガイド (052-972-0430) / ブレイクカフェ (Halle Runde 1階)

Web Live Concert 同時開催 ルンデ会員登録が必要です。詳しくはルンデWebサイトのチケット購入ページでご確認ください。

ご来場の皆さんへお願い

- 発熱(37.5℃以上)および体調不良の方のご来場はお控えください。公演後でも構いませんのでご連絡いただきましたら、ルンデ主催の他公演への振替をいたします。
- マスクのご持参をお願いいたします。感染症蔓延期は必ずご着用ください。
- ご来場いただく皆さんと共に作る音楽の場です。気軽に来ていただける場を目指していますが、よりよい空間にするためのルールとお願い事下記URLのWebページに記載しておりますので、お時間があるときにご確認ください。

【ご来場の皆様へ(ルンデのルールその.2)】

<https://dbf.jp/runde/index.cfm?page=rule02>



一般財団法人 ルンデ

〒466-0044 名古屋市昭和区桜山町1丁目21番

TEL : 052-846-8566 / E-mail : runde@dbf.jp

【アクセス】

ホールへお越しの方の駐車場ご利用はお断りいたします。

名古屋駅からは、名古屋市営地下鉄桜通線

金山駅からは、名古屋市営バスをご利用ください。

・名古屋市営地下鉄桜通線・鶴舞線「御器所駅」3番出口

・名古屋市営地下鉄桜通線「桜山駅」1番出口

・名古屋市営バス「桜山」

(それぞれ徒歩 10 分程度)

<https://dbf.jp/runde/>

